

# 経済・金融 フラッシュ

## 景気ウォッチャー調査(16年6月)

～英国のEU離脱で景況感は悪化が鮮明に

経済研究部 研究員 岡 圭佑

TEL:03-3512-1835 E-mail: koka@nli-research.co.jp

	景気の現状判断(方向性)					景気の先行き判断(方向性)				
	合計	季節調整値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	季節調整値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
15年 6月	51.0	49.9	50.4	51.3	54.7	53.5	51.7	52.9	53.9	56.6
7月	51.6	49.8	50.8	52.4	55.7	51.9	51.5	51.3	51.9	56.0
8月	49.3	50.0	48.8	48.3	55.2	48.2	49.8	47.4	48.7	52.7
9月	47.5	49.1	47.0	46.9	52.7	49.1	50.3	48.9	48.3	52.3
10月	48.2	51.6	48.1	47.4	51.1	49.1	51.3	49.3	47.5	51.5
11月	46.1	50.1	44.4	47.8	54.0	48.2	51.4	47.9	47.4	52.2
12月	48.7	50.5	47.7	48.9	55.1	48.2	51.1	47.2	48.2	55.2
16年 1月	46.6	48.5	45.6	45.9	54.8	49.5	49.4	48.8	49.2	54.4
2月	44.6	44.6	43.2	45.8	51.6	48.2	45.7	48.5	46.8	49.7
3月	45.4	41.6	44.3	46.5	50.8	46.7	45.3	46.4	46.4	49.9
4月	43.5	40.0	42.2	45.0	48.9	45.5	42.9	45.3	45.3	47.8
5月	43.0	40.6	41.9	43.5	49.3	47.3	44.6	46.5	47.9	51.5
6月	41.2	39.9	40.2	42.0	46.0	41.5	39.7	41.5	41.1	42.7

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種(小売関連、飲食関連、サービス関連など)の景気判断、企業動向関連業種(製造業、非製造業など)の景気判断、雇用関連業種(人材派遣業、職業安定所など)の景気判断を示す

### 1. 景気の現状判断 DI:3ヵ月連続の悪化、景況感は悪化が鮮明に

7月8日に内閣府から公表された16年6月の景気ウォッチャー調査によると、景気の現状判断DIは41.2。(前月:43.0)と3ヵ月連続の悪化となった。参考系列として公表されている季節調整値も39.9と前月から▲0.7ポイント悪化するなど、景況感は一段と悪化の傾向を強めている。

これまでインバウンド需要の下支えがあったものの、中国をはじめとした新興国経済の減速や株安・円高、熊本地震によるマインド面の下押しもあり景況感は停滞が続いていた。しかし、6月調査ではインバウンド需要による押し上げ効果が弱まるなか、英国EU離脱決定の下押し要因が加わったことで景況感は一段と悪化した。企業動向関連では、株安・円高の進行に加え、EU離脱決定に伴う世界景気の先行き不透明感から、幅広い業種で景況感が悪化した。家計動向関連では、株安・円高の進行で消費マインドが悪化したほか、円高がインバウンド消費の逆風となり百貨店を中心に弱さがみられる。

コメントをみると、新たな景況感の押し上げ材料が不在のなか、円高・株安関連のものをはじめ、熊本地震関連や英国のEU離脱関連など下押し材料は増加傾向にある(最終頁の図参照)。年初から下落を続けていた原油価格は持ち直し傾向にあるものの、急激な円高を根拠にデフレ懸念を警戒する声も一部の業種で聞かれた。

## 2. 英国のEU離脱で企業・消費者マインドともに悪化

現状判断DIの内訳をみると、家計動向関連（前月差▲1.7ポイント）、企業動向関連（同▲1.5ポイント）、雇用関連（前月差▲3.3ポイント）いずれも前月から悪化した。家計動向関連のうち、サービス関連（前月差▲1.9ポイント）が最大の落ち込みとなり、次いで小売関連（同▲1.7ポイント）、住宅関連（同▲1.2ポイント）、飲食関連（同▲0.6ポイント）となった。

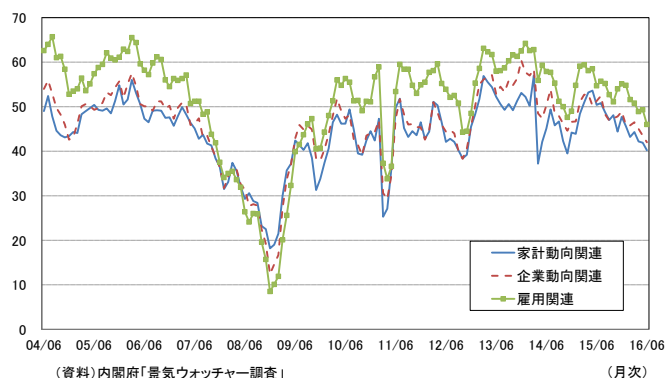
コメントをみると、小売関連では、改善要因として「季節のせいもあるが、ボーナスが支給されたため、エアコンが売れ始めている」（南関東・一般小売店）といったように、ボーナスによる消費増を挙げるコメントが見受けられたほか、「気温の上昇とともに来客数が増加してきている」（北海道・コンビニ）など、気温上昇による夏物商品の好調を指摘するコメントが寄せられた。一方、「6月の予約が入る5月ごろに熊本地震報道の影響による自粛ムードがあり旅行需要が減少したことから、今年の6月の状況は悪い」（北関東・観光型旅館）とのコメントのように、引き続き熊本地震によるマインド面の下押しがみられるほか、「英国のEU離脱問題に伴う円高、株安により、客は財布のひもを更に引締めている」（北関東・商店街）など、英国のEU離脱決定後の円高・株安による消費マインドの悪化が大きく影響したことが窺える。また、6月は季節商品の需要が高まる時期であるが、「婦人・紳士服や、婦人・紳士雑貨の販売不振が続いているほか、6月から受注をスタートしたお中元ギフトの購買客数も伸び悩んでいる」（近畿・百貨店）のように、季節要因による盛り上がりもあまり確認できない。

そのほか、「英国のEU離脱問題により、円高、デフレ傾向になることが非常に懸念される」（南関東・スーパー）など、円高によるデフレを懸念する声も寄せられた。これまで小売関連の下支え役となっていたインバウンド需要については、「今月は売上が目標を下回る見込みである。従来は好調であったインバウンドや、高額品の動きが鈍くなってきている」（近畿・百貨店）など、インバウンド需要の鈍さを指摘するコメントが多く寄せられた。

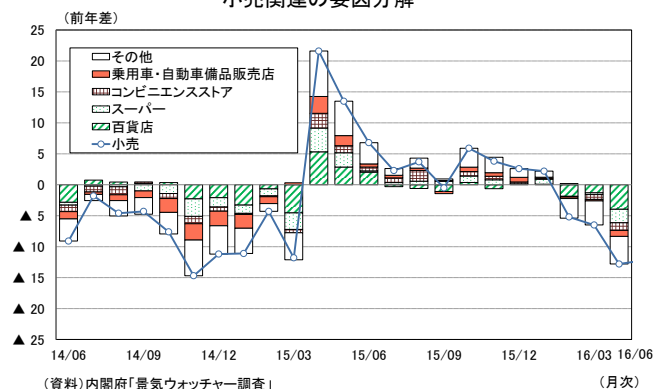
飲食関連では、来客数が前年を下回っているとの声が多く寄せられたほか、「特別、景気が上向きになるような材料がない。英国のEU離脱問題の影響により、今後、円高が進むことが懸念されるなど、不安材料の方が多く、景気が上向きになる要素がない」（北海道・高級レストラン）など、円高によるマインド面の下押しを懸念するコメントも見受けられた。

住宅関連では、「マイナス金利の影響で住宅ローンの借り換えは増えているが、消費増税の延期で新規契約が伸び悩んでいる」（近畿・住宅販売会社）など、消費増税延期の影響を指摘するコメントが寄せられた。

景気の現状判断DI(分野別、原数値)



小売関連の要因分解



企業動向関連は、製造業（前月差▲0.9ポイント）、非製造業（同▲2.4ポイント）ともに前月から悪化した。コメントをみると、「英国のEU離脱問題の影響で円高となり輸出関連の繊維や機械などの出荷が減っている」（北陸・輸送業）や「英国のEU離脱問題の影響はまだ分からないものの、マインドが低下していることは間違いない」（中国・建設業）のように、製造業、非製造業ともにEU離脱の影響を懸念する声が多く聞かれた。

雇用関連は年初に入ってから悪化が続き、節目の50を3ヵ月連続で割り込むなど改善の動きに一服感がみられる。コメントをみると、「新規求人数、有効求人数共にほぼ横ばいで推移しており、特に大きな変化はみられていない」（東北・職業安定所）など雇用情勢の改善を指摘するコメントがみられる一方で、「このところ求人件数が前年、前々年の水準を下回ってきている」（北海道・求人情報誌製作会社）など求人件数の減少を指摘するコメントや「英国のEU離脱問題による影響で、やや悪くなっている」（南関東・学校）のように、EU離脱による雇用面への影響を懸念するコメントが散見された。

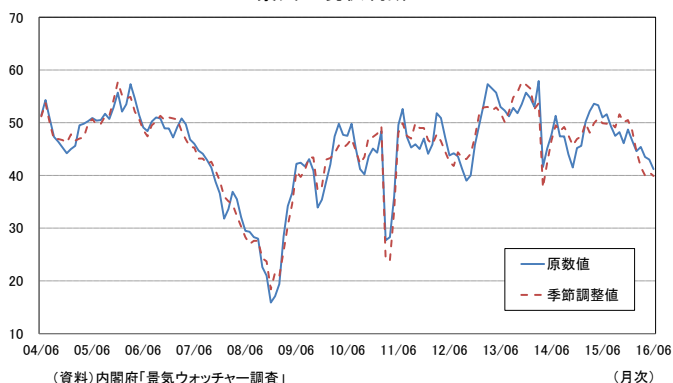
### 3. 景気の先行き判断 DI:2ヵ月ぶりの悪化、先行き不透明感が高まる

先行き判断DIは41.5（前月差▲5.8ポイント）と2ヵ月ぶりに悪化した。参考系列として公表されている季節調整値は39.7と前月から▲4.9ポイントの悪化となった。先行き判断DIの内訳をみると、家計動向関連が前月差▲5.0ポイント、企業動向関連が同▲6.8ポイント、雇用関連が同▲8.8ポイントといずれも大幅なマイナスとなった。前月に4ヵ月ぶりに節目の50を回復した雇用関連（42.7）は大幅な悪化により50を大きく下回った。

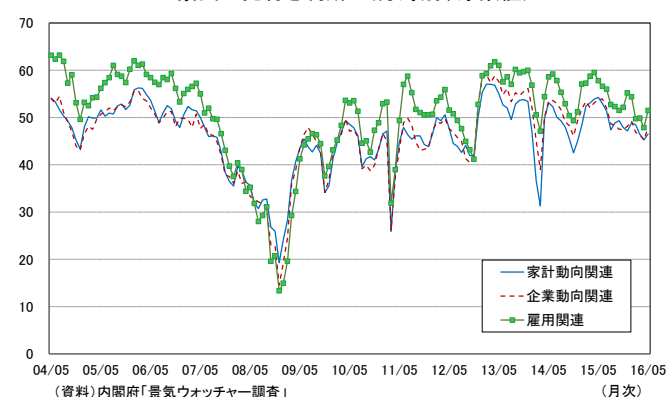
家計動向関連は、「バーゲンの出足も良く、ボーナスの時期も重なるので、梅雨が明けたら良い感じになっていくのではないかな」（四国・衣料品専門店）など、ボーナスによる消費押し上げ効果を期待するコメントが見受けられる一方で、「英国のEU離脱問題の影響がどうなるか、先行きが不透明なこともマイナス要因である」（北海道・スーパー）といったように、EU離脱による先行き懸念が根強いことが窺える。熊本地震の影響については、「熊本地震報道が減ったことにより、旅行需要の回復が見込まれる」（北関東・観光型旅館）のように、マインドの下押しが和らぎつつある様子が見て取れる。

企業動向関連は、「英国のEU離脱問題により、世界経済が不安定になっている。急激な円高、株安によって、消費者心理が冷え込んでいる。また、企業の収益面から、賃金の低下につながる恐れがある状況で、厳しいのではないかな」（南関東・繊維工業）など、EU離脱による企業収益への影響を懸念す

景気現状判断DI



景気の先行き判断DI(分野別、原数値)

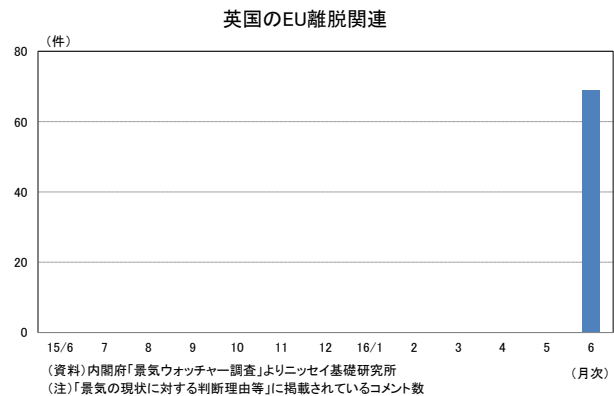
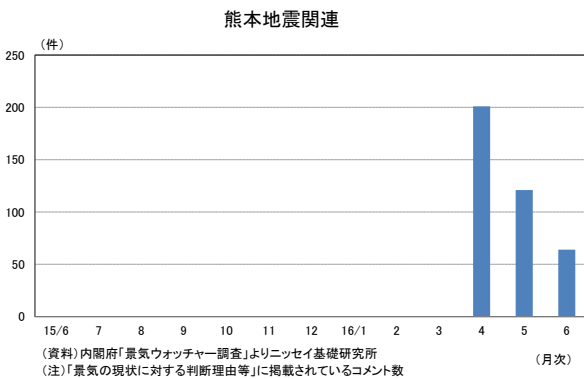
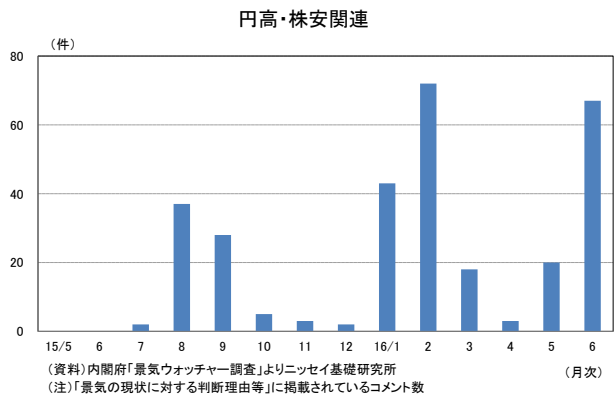
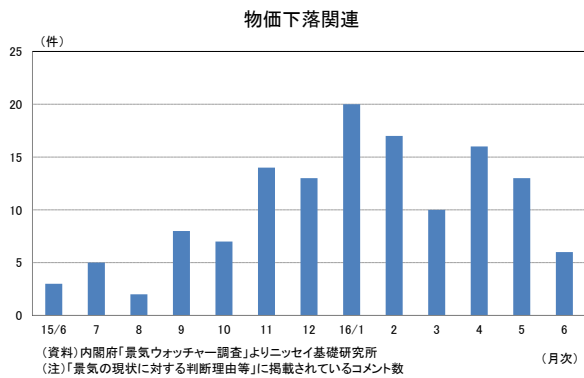
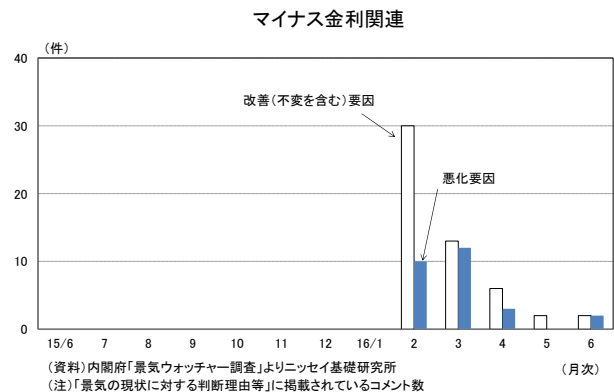
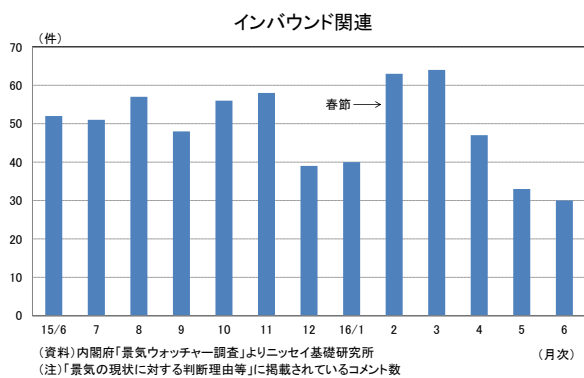


る声が聞かれた。

雇用関連は、「英国のEU離脱問題による影響で、悪くなる」（南関東・学校）のように、景気の先行き不安から雇用環境が厳しくなるとの懸念が根強いようだ。

中国経済の減速を発端とした金融市場の混乱は落ち着きを取り戻していたものの、英国のEU離脱決定は金融市場に再び動揺をもたしている。さらに、熊本地震によるマインド面の下押しは和らぎつつあるが、これまで下支え役となっていたインバウンド消費が鈍ってきたことも、景況感を一段と悪化させている。先行きについては、英国のEU離脱決定による世界経済への影響や金融市場の動向などに左右される展開が予想されるため、当面景況感は弱含みで推移するだろう。

### 各種コメント数の推移



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。